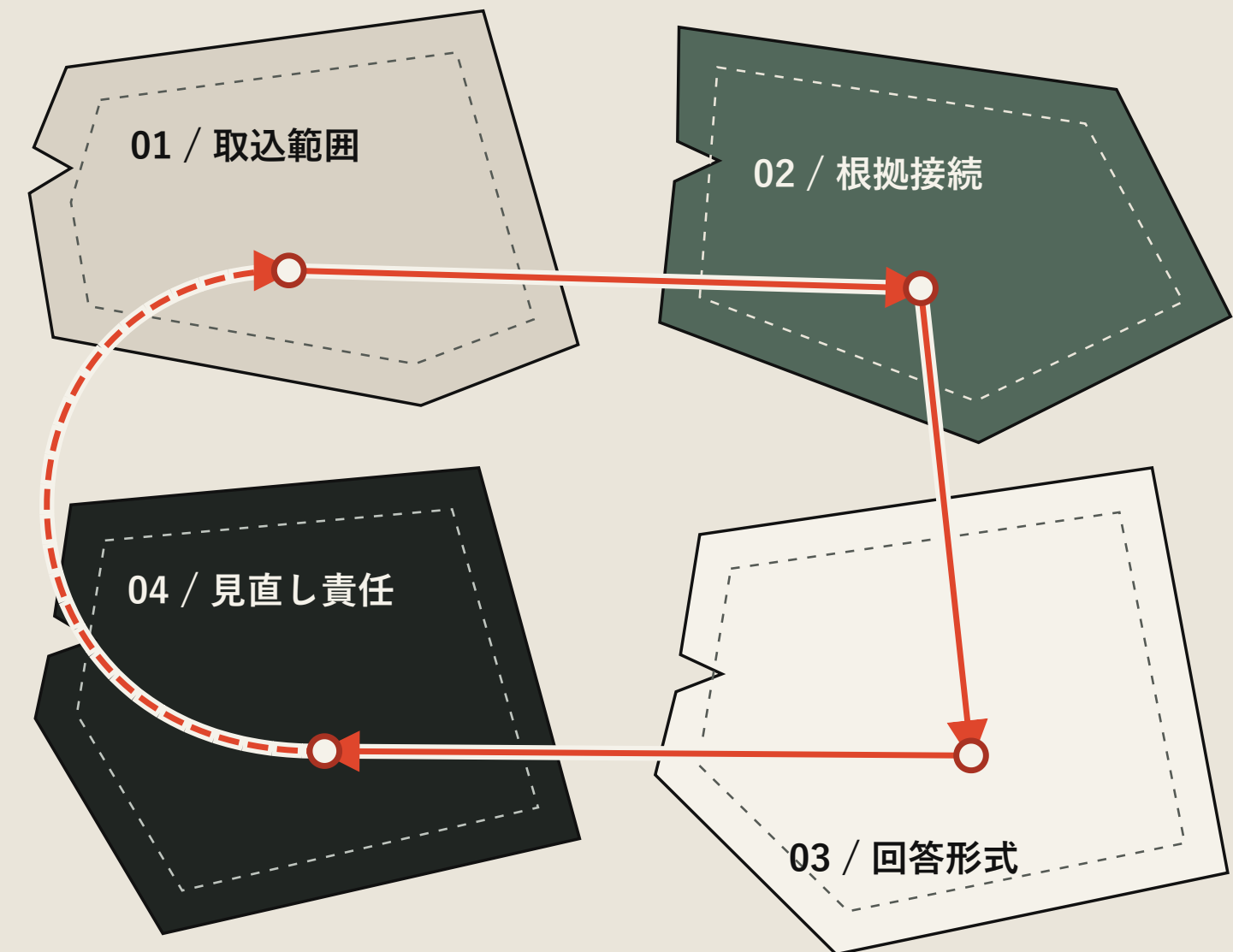


AI KNOWLEDGE FOUNDATION / CONCEPT

散らばる知識を、 仕事に織り込む。

ORIWAは、社内に散在する文書や会話を、出典・担当・更新状況がわかる回答へ整えるAIナレッジ基盤です。

自主制作のコンセプトスタディです。実在・公開済みの製品や導入実績を示すものではありません。



凡例 実線 = 根拠 破線 = 更新 ○ = 人の確認

答えがあっても、 判断が止まる。

-
- | | | |
|----|----------|--|
| 01 | どの版を使う？ | 文書と会話に異なる説明がある。現行版を確かめる手がかりが必要です。 |
| 02 | 何を根拠にする？ | 回答だけでは、適用条件や前提が見えない。元の情報へ戻る道筋をつくりま
す。 |
| 03 | 誰が見直す？ | 気づいた差分を誰に返すか。知識の範囲と更新の責任を結びます。 |
-

知識を、 見直せる流れに。

01 / 取込範囲

取り込む

文書や会話を、管理する知識の範囲にまとめる。

02 / 根拠接続

根拠づける

参照元と該当箇所を回答に結びつける。

03 / 回答形式

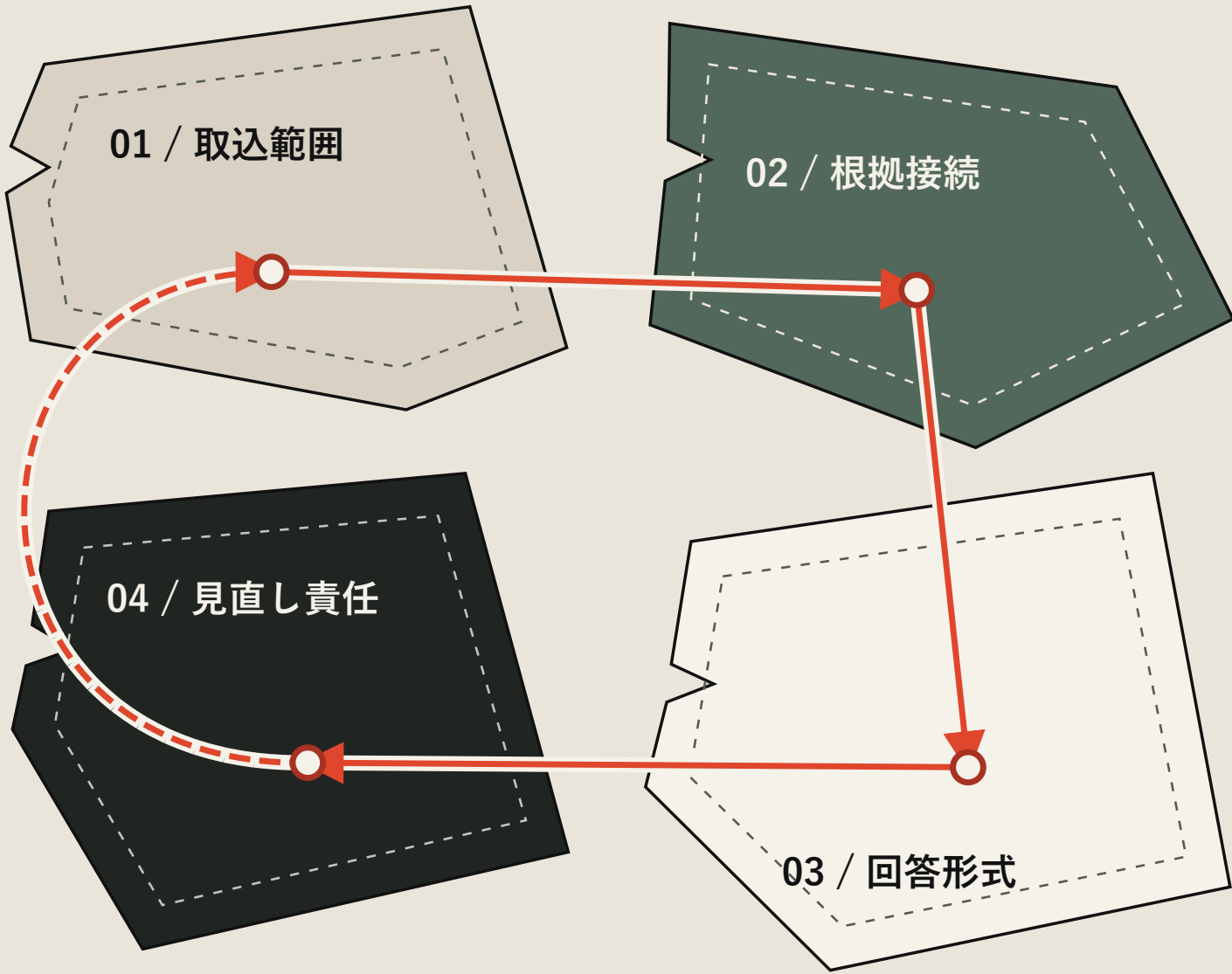
答える

仕事の場面に合わせて情報を提示する。

04 / 見直し責任

見直す

指摘を担当者に戻し、更新の理由を残す。



凡例 実線 = 根拠 破線 = 更新 ○ = 人の確認

答えと根拠を、同じ画面に。

CONCEPT DATA / 架空画面

● 状態例：人による確認待ち

ANSWER / 回答

手順を案内する前に、何を確認める？
参照元の適用条件と現行版を確認します。
差分があれば、担当者に確認を依頼します。

DECISION / 分岐条件

01 / GUIDE

現行版と一致

手順を案内する。

現在の分岐
02 / REVIEW

差分あり

担当者に確認を依頼する。

EVIDENCE / 根拠

SOURCE / 参照元

[参照元]

[該当箇所の抜粋]

担当者 [担当者]

最終更新日 [最終更新日]

閲覧範囲 [閲覧範囲]

REVIEW / 確認

差分を確認する

担当者が適用条件を確認、更新理由を記録します。

ACTION / 確認画面を開く（設計例）

STATIC DESIGN SAMPLE / 静的設計案
送信・更新は行いません。[] は未入力のサンプル項目です。

CONCEPT VALUE

根拠から、仕事へ。

- 01

根拠までたどれる

回答ごとに参照元、該当箇所、最終更新日を表示します。確認が必要なときは、元の情報へそのまま戻れます。
- 02

更新を仕事に組み込む

知識ごとに担当者と見直し時期を設定します。現場からの指摘や不足は、更新候補として担当者に戻ります。
- 03

場面に合わせて届ける

同じ根拠をもとに、問い合わせ対応、提案準備、社内手順、オンボーディングに合う形で提示します。

同じ根拠を、 場面に合わせて届ける。

01

問い合わせ対応

回答と適用条件を並べ、案内前に参照元を確かめる。

03

社内手順

手順の現行版と担当者を確認し、差分を更新候補へ戻す。

02

提案準備

同じ根拠から説明を組み立て、提案の前提を共有する。

04

オンボーディング

初めて読む人にも、判断の理由と確認先を示す。

HUMAN RESPONSIBILITY

任せる範囲を、 人が決める。

AIの回答をそのまま正解として扱わないために。参照の境界と、見直す人を同時に設計します。

01 参照範囲

取り込む文書と会話の境界を決める。

02 閲覧権限

[閲覧範囲] に応じて見せる情報を分ける想定。

03 人による確認

回答を使う前に、人が根拠と適用条件を確かめる。

04 更新記録

[担当者] が変更理由と [最終更新日] を残す。

START WITH ONE DOMAIN

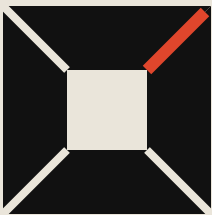
まずは、更新に 迷う知識から。

ひとつの領域を選び、参照元・担当者・閲覧範囲を整理する
ところから。

導入イメージを相談する（設計例）

設計の背景を見る（設計例）

自主制作のコンセプトスタディです。実在・公開済みの製品や導入実績を示すもの
ではありません。
表示中の CTA は静的な設計例です。受付・送信機能はありません。



Evidence Weave
根拠の織り目